

# 幼児デイキャンプ～たかとお森の遊び場～

令和6年11月10日（日）

【対象】年長児

【場所】国立信州高遠青少年自然の家

## 1. 趣旨

初めて出会う友だちやボランティアとともに自然の中での遊びを通して、豊かな感性、好奇心、思考力、表現力、友だちと仲良く遊ぼうとする心を養う。

## 2. 事業の概要

(1)期 日 令和6年11月10日(日) 日帰り

(2)参加者 14名

(3)日 程

	9:30	10	11	12	13	14	15	15:20		
11/10 (日)	受付	開 会 式	①森の中で お友達と遊ぼう (ボランティア企画)	②お弁当を作ろう	移 動	③作ったお弁当 と一緒に 食べよう	④森のアスレチックで遊ぼう	移 動	閉 会 式	解 散

## 3. 企画運営のポイント

- ・幼児期の子どもたちが自然を感じながら体験活動をすることができるようにするため、個人で遊ぶ時間とグループで遊ぶ時間を分けて日程を組んだ。
- ・ボランティアが活動プログラムを自主企画・運営する時間を設けることで、ボランティアとしての技能や企画力を高めるとともに、より主体的に幼児の目線に立つことや積極的に参加者と関わることを狙った。

## 4. 参加者・保護者アンケートより（一部抜粋）

- ・初めて会ったお友達に話しかけたみたいなので、その話を聞いて親としてもとてもうれしく感じました。
- ・初めて高遠自然の家に行きました。素晴らしい環境なので、春夏秋冬と季節ごとにぜひやってほしいです。
- ・知らない場所でも、初めて出会った人でも、一緒に協力することで楽しいことはたくさんあるんだなと子どもながらに実感できたようで、「また行きたい！」と子どもの口から聞くことができました。このような取り組みを続けるとこれからの子どもたちの将来にとっても役立つ経験になると思いました。
- ・ボランティアに親切にしてもらったようで、また次も会えるか何度も聞かれました。これまでは親元を離れてのイベント参加にはあまり積極的ではありませんでしたが、今回の体験で自信がついたようで、また一人で参加したいと言っています。
- ・どんなごはんを作って食べたのかを教えてくださいました！初めてあった人、初めての経験で楽しいというより緊張していたようです。一人っ子でこういった経験をして、本人なりに頑張ったようです。また参加したいと言いました。

## 5. 事業中の様子

【グループ遊び 松ぼっくりリレー】



【グループ遊び 王冠作り】



【グループ遊び 王冠作り】



【お弁当作り】



【お弁当作り】



【お弁当作り 後片付け】



【森のアスレチック遊び】



【森のアスレチック遊び】



【森のアスレチック遊び】



## 6. 成果（○）と課題（●）

- 親元を離れてのキャンプで、心細い思いをもって参加した幼児もいた。それでも最後までやりきったことで、頼もしさを感じるようになった。うまくいったこともそうでないことも、本人へのフィードバック次第で、成長や自信につながることを随所に感じるキャンプとなった。
- ボランティア企画の時間については、事業前日から、参加者が幼児であることや様々なシチュエーションをイメージしながら準備を進めることができた。企画段階で想定していたことと実際に参加者と触れ合ったことで、ボランティアにとって気づいたことも多かったようだった。また、子どもたちが楽しそうに遊んでいる姿が多く見られた。ボランティアが参加者の目線に立って、企画・運営をしていたからだと感じている。
- 例年宿泊を伴う事業である幼児キャンプを、今回は日帰りで実施した。その影響を探りながらの実施となったが、プログラムの工夫で充実したキャンプにすることができた。一方で、参加者・スタッフから物足りなさや宿泊のよさを再確認したという声もあったため、次年度も開催できるのであれば、宿泊に戻すことも検討したい。
- 参加者数が伸びなかった。保護者の送迎を前提としたため、チラシ配布範囲を伊那市内に限定したこと、同時期に近隣各地でイベントが開かれていたことが原因として考えられる。予算を組むことができれば、次年度は上伊那地区、諏訪地区に範囲を広げてチラシを配布することを検討したい。また、季節としては秋が最も適しているが、多くの方に体験を提供するという当施設のミッションも踏まえ、開催時期を検討したい。